

滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

- ①建屋内滞留水水位及び貯蔵量
 - ・建屋内滞留水水位は運転上の制限を満足
 - ・処理装置(第二セシウム吸着装置)は運転中
- ②廃棄物発生量
 - ・除染装置停止中のため、廃スラッジ貯蔵量は変動なし
- ③処理水タンク貯蔵量
 - ・淡水化装置(RO方式)による処理により、処理後の淡水受タンク及び濃縮塩水タンク貯蔵量は変動あり
 - ・蒸発濃縮装置は全台停止中
- ④5、6号機滞留水貯蔵量
 - ・滞留水移送によりF・Hエリアタンク貯蔵量は変動あり

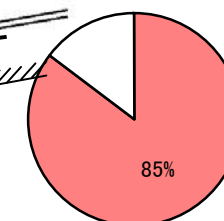
①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約14,300m ³	OP.3,081
2号機	約23,100m ³	OP.3,221
3号機	約25,700m ³	OP.3,315
4号機	約20,200m ³	OP.3,301
合計	約83,300m ³	

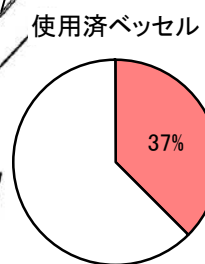
貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約16,700m ³	OP.4,722
高温焼却炉建屋	約4,790m ³	OP.3,380
合計	約21,490m ³	

②廃棄物発生量

廃スラッジ

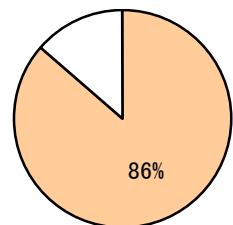


保管量:597/700[m3] ※3



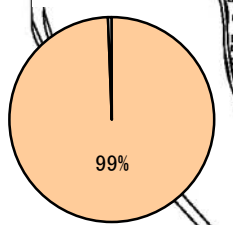
保管量:425/1137体 ※1

F・Hエリアタンク



水量:12015/13900[m3] ※3※4

メガフロート

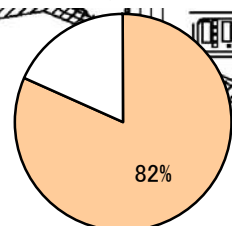


水量:7937/8000[m3] ※3

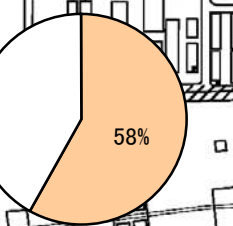
④5、6号機滞留水貯蔵量

炉注水量
1号機:132m³/日
2号機:204m³/日
3号機:204m³/日

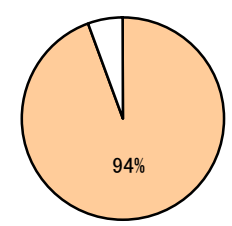
ろ過水タンク



水量:20494/25100[m3] ※2,3



水量:5517/9500[m3] ※2,3



水量:154388/163500[m3] ※2,3

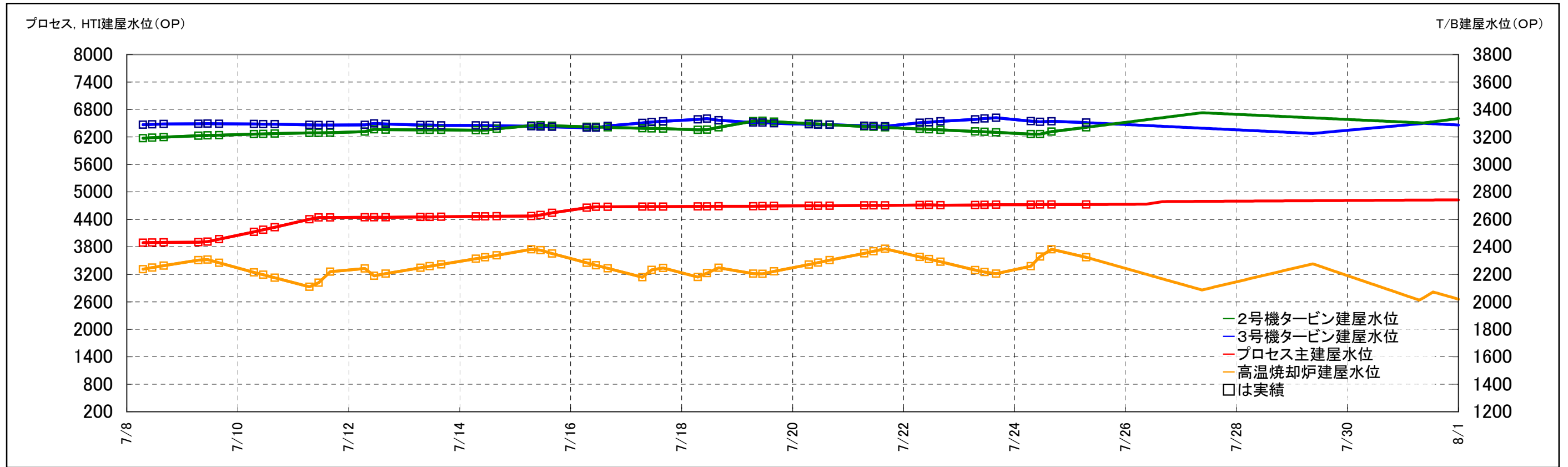
③処理水タンク貯蔵量

※1 第二セシウム吸着装置使用済ベッセルを含む
 ※2 装置稼働中につき水位が静定しないため参考扱い
 ※3 貯蔵容量は運用上の上限を示す
 (タンクの貯蔵容量は10の位を切り捨てして表記)
 ※4 Hエリアの増設タンクのうち、3千トン分を5,6号機滞留水用に使用

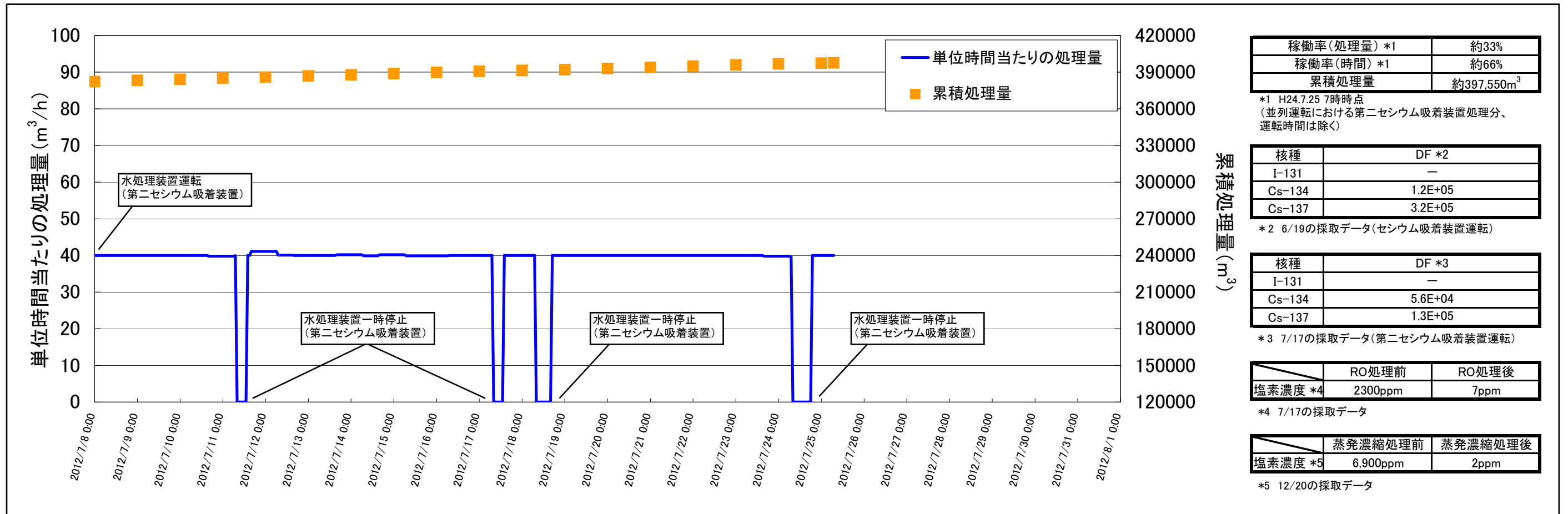
中低レベル(既設)
 中低レベル(追設予定)
 高レベル(既設)
 高レベル(追設予定)
 移送ホース布設ルート
 淡水注水ルート

滞留水の処理状況(7月25日時点)

2, 3号機タービン建屋及びプロセス主建屋, 高温焼却炉建屋の水位グラフ



処理装置の稼働状況



BエリアタンクからGエリアタンクへのRO処理水の移送について

■実施目的

RO濃縮塩水の発生量抑制のため、RO濃縮塩水の再循環運転を実施しているが、これに伴いRO処理水（淡水）の貯蔵量が増加していることから、Gエリアタンクを淡水受タンクとして使用する。

■実施内容

Gエリアタンク（ $100\text{m}^3 \times 72$ 基）へはRO処理水（淡水）を直接移送できないことから、現在貯蔵しているBエリアタンク内のRO処理水（淡水）をGエリアタンクに移送（ $6,300\text{m}^3$ ）し、Bエリアタンクの貯蔵容量を確保する。

■実施時期：8月上旬～9月上旬（約40日間程度）

